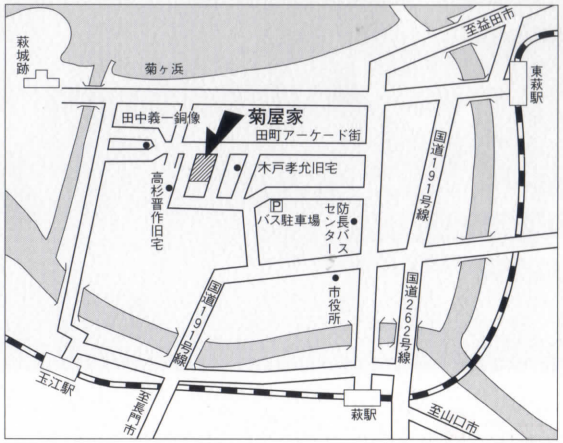
―略―

さらには長州人のもつ品のいい軽快な美意識を存分に感じた。向日性の高い庭園をふくめて屋敷の構造を抽象化してゆくとき、そのまま長州藩というものの藩財政の機構を感じとれるのではあるまいかということも思った。

さらに、いま感ずることは、たまたま代々の菊屋家の努力で遺されてきたこの造形世界こそ、長州という地域性をはるかに離れて、日本人のさまざまな分野の意識史を感得する上でかけがえのない遺産ではないかということである。

司馬遼太郎

菊屋家住宅位置図



財団法人 菊屋家住宅保存会
〒758-0072 萩市呉服町1丁目1番地 TEL&FAX(0838)25-8282
E-mail kikuyake@haginet.ne.jp
http://www.haginet.ne.jp/users/kikuyake/

沿革

菊屋家は慶長九年（1604年）毛利輝元の萩入国に従い山口から萩に移り、城下の町造りに尽力して呉服町に屋敷を拝領しました。また、阿古ケ浜に藩士や足軽衆のための惣固屋を建てて住まわせたので、阿古ケ浜を菊ケ浜と称するようになりました。

その後、代々大年寄格に任命され、藩の御用達を勤めて参りました。屋敷は度々、御上使の本陣を命ぜられ、その他御究場所、恵民録役所等、しばしば藩の御用宅に借り上げられていました。従って先祖代々〝我家は私有であって然様でなし〟と常に御用屋敷としての体面整備に配慮して、屋敷建物を大切に維持してきたことから〝全国でも最古に属する町家〟として重要文化財の指定をうけています。

菊屋家の白壁と、なまこ壁の続く菊屋横丁には、高杉晋作の旧宅もあり、桂小五郎旧宅などが並ぶ江戸屋横丁を含めたこの一帯は、国指定史跡〝萩城城下町〟として、萩の顔とも言える美しく静かなたたずまいを見せています。

入場料
（消費税が含まれております）

	個人	団体
一般	500円	450円
中高生	300円	250円
小学生	200円	170円

年中無休
（8:30～17:00）

みどころ

主屋、本蔵、金蔵、釜場、米蔵の五棟が国の重要文化財指定を受けています。美術品、民具、古書籍等500余点をそれぞれの部屋に常設展示しており、その他の附属建物、庭園等を含めて、往時の御用商人の暮しぶりがしのばれます。